



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2020年3月1日

3月 第218号

奈良・人と自然の会



＜彩の森での植樹（ヤマザクラとスダジイ）＞



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	自然教室年間活動計画	10
Monthly Repo. ならやま	2	私のふるさと	11
里山の今・虫だより	3・4	字遊字感	12
新春講演会・レポ	5	ならやま投句箱	13
月例研修会・レポ	6	ならやまプロジェクト	14
進路ガイダンス・レポ	7	行事案内	15
月例研修会年間活動計画	8	奈良学クイズ・字遊字感	16
歴文クラブ年間活動計画	9	幹事会報告・編集後記	17



会長 鈴木 末一

市民活動を維持継続させていくためには、人材、資材、そして、志(資)金が三本柱です。財団や企業などが市民活動団体の活動、とりわけ自然環境活動に対して助成金を提供していただけなかったら、とても十分な活動はできないと言っても過言ではないでしょう。

本会も創立以来今日までの間に多くの財団や企業から助成していただくことができました。

助成金を通しての期待度として、①地域社会への波及効果 ②地域社会への貢献活動などが挙げられます。以前にも書いたことがあります、助成金決定授与式に出席しますと、自然環境活動への企業の意気込みと取り組む姿勢などの理念がにじみ出ているのです。

2月6日、日航ホテル新潟にて開催された第30回コメリ緑資金助成金目録贈呈式に出席しました。当日午前8時30分からリハーサルが行われるので、前泊で出かけました。前夜から吹雪となる悪天候であり、定刻より少し早めに会場のホテルへ。財団の方々と挨拶を交わした後、いよいよプレゼンです。十分にシナリオは考えたつもりでしたが、いざとなると気合いが入りすぎたのか、20分近くになってしまう。本番では10分程度にしなければならない。頭を整理していると、理事長が入場して来られた。なんと理事長もリハーサルをされるとのこと。これには驚きました。

財団にとって節目となる記念の式ではありますが、それ以上に助成先の市民団体に、美しい花や緑に囲まれたふるさとづくりを応援する、という財団の理念をしっかりと受け止めてもらいたいとの意気込みの表れだと理解しました。常日ごろ申し上げていることですが、資金は「志金」なのだとは再認識し、助成財団等への感謝の気持ちを忘れてはなりません。

交流会で理事長と暫し歓談、当会の会員数、前歴不問、天声人語のことなどに花咲かせ、重ねて感謝の気持ちを伝え、越後路を後にしました。

いよいよ当会が二十歳の成人式を迎える年が、1年後となってきます。

創立20周年記念事業企画委員会を昨年から発足させ、各種事業について検討してきました。その中の一つとして、草創期から充実期、そして発展期へと力強く歩みを進めていくために、さらには日ごろ、志金(助成金)面でご高配いただいている財団や企業関係、そして、県民の皆様へのご支援への感謝の気持ちとともに、より一層奮励努力するという決意を示すためにも、「キャッチフレーズとロゴマーク」の募集を行いました。

キャッチフレーズ部門では20点、ロゴマーク部門では6点、会員の皆様の心のこもった作品をご応募いただきました。

一次選考として、会員の皆様に投票をお願いし、その結果を受け、企画委員会で協議を重ねました。そして、最終的に幹事会にお諮りをした結果、次の2作品に決定しました。

キャッチフレーズには、

「20年出会い重ねて 広がる未来」を、
ロゴマークには、下のデザインとしました。



記念事業には、記念誌(当会史16年～20年)の編纂、記念講演会、記念研修旅行、記念植樹などを候補にし、それぞれについて細部にわたっての検討を重ねることになっています。

会員の皆様からのご意見をお寄せいただければ幸いです。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

1月24日(金) 振替活動 曇り 44名

振替活動日。霧で真っ白だ。活動に参加した会員も44名と少なかった。それでも暖かく作業もはかどる。打ち合わせでは新春講演会等への参加要請や樹木の図録編集のための同定作業実施の予告も行われる。里山Gは楢木作製や玉切り、エコGはシイタケ等の収穫やビニールハウスの補修、そして景観Gは彩の森の竹林の最終整備を行う。その他ビオ班は西池の水抜き、花班はアジサイへの寒肥施肥、そしてパトGは4コースパトロールとA地区のロープ張りに取り組む。また果樹班は鹿よけのフェンスのネット張りに汗を流す。

1月30日(木) 活動 晴れ 82名

野も山も緑になり始める。打ち合わせでは新春講演会や懇親会への参加お礼や、助成金関係の連絡が主なものになる。また樹木の図録編集のための笹等の同定作業も行われる。里山Gは楢木伐採、エコGはビニールハウス補修とボカシ作り、そして景観Gは真竹整理を行う。またビオ班はタナゴ



池整備、花班は葉ボタンへの油粕やりや草取り、そしてパトGは1コースとA地区のパト

ロールと植樹、果樹班は鹿よけフェンス張りを先週に続き実施する。

2月6日(木) 活動 晴れ 72名+3名

また寒さが来、凍れる一日になった。今日は協働活動日になり、シイタケイベントの植樹の準備等が進む。またアダプトプログラム活動も行われ、たくさんのごみが集まる。打ち合わせでは協働活

動の段取りや交通費補助支給の件、その他シイタケイベントの要員も改めて募集される。見学者3名(このうち2名は本日から入会)。シニア生2名。会長は助成金関係の授与式典のため、新潟に出張。里山Gはイベント植樹準備、エコGはビニールハウス建て替え、そして景観Gは真竹の整理を行う。またビオ班は東池水抜き、花班は山野草園の草取り、パトGは2コースパトロールと植樹に取り組む。その他果樹班は鹿よけフェンス張りを続ける。

2月13日(木) 活動 晴れ 71名+9名

暖かい。打ち合わせでは先週の助成金目録贈呈の様子や、シイタケイベントの打ち合わせの件等が行われる。近大から6名、シニア生3名来訪。里山Gはイベント用に楢木作製や真砂土運びを中心に、エコGはビニールハウスの建て替え、そして景観Gは真竹の処理を行う。その他ビオ班は西池の整備、花班は花畑への追肥、そしてパトGは3コースパトロールと階段表示の看板付けに取り組む。また果樹班は鹿よけのフェンスの補強が大きな仕事になる。

2月20日(木) 活動 晴れ 80名+2名

コロナウイルス感染拡大が懸念される。会長からは早速この件も含めて健康管理には十分留意する旨の話がある。里山Gはイベント用の遊具作製を中心に、エコGは畑の小石拾いとビニールハウスの仕上げ、そして景観Gは真竹の処理を行う。



その他ビオ班は西池の泥だし、花班はシモツケの移植、そしてパトGは4コースパトロールと丸太階段補修に取り組む。また果樹班は植樹と鹿よけのフェンスに有刺鉄線を張り、補強を行う。

里山グループ**里山の今****エコファームグループ**

◆「なんでこのわたしが・・・」

池山 良武

「なんでこのわたしが・・・」
これは、どこかの予備校のキャッチフレーズではない。

ならやま活動日の半分も参加していない私に、里山グループの今を語る資格はない。いや語れない。なのに何の予告もなく、執筆せよとのメールらしきものが届いた。これは仲間外れにしていけないと言う温かいメッセージなのか、それとも、こんな時に困るぞという戒めなのか。どちらでもないのかも知れないが困ったものである。

ありがたいことに、都合の付かない日は休み、行ける日に参加するという状態でも、参加した日は誰もが温かく迎えてくれる雰囲気がある。こんな飛び入りの参加でも、それなりに自分ができる仕事という役割があるということだ。

先月号で山本さんから紹介されていたが「葉枯らし」していたコナラを植菌用の原木に切りそろえ、太い部分は薪割り用に玉切りにそろえ、これらを雑木や笹が生い茂った中を抱えて台車の所まで運び出し、山から下ろす作業が進められている。

重量材を台車で山の凸凹道を搬出するのは慣れないとバランスが取り難く、見た目以上に危険な作業である。これらの作業と並行して、小枝の整理、薪割り作業なども進められているが、どの部署も人が余るということはない。

不思議なことに誰が何をどう指示するでもなく、各個人がそれぞれ自発的に仕事に取りかかっていて、全体として計画に沿った目標が達成されていく。それだけに積極的に山に入って仕事をしようと思えば、時折参加の私にもやり甲斐のある充実した1日を過ごせるのである。

4月は、新入会者が増える時期かとも思うが、里山に興味、関心さえあれば、毎回出席では重荷になるなどとは思わず、里山グループに入れば、充実した1日を過ごすことができると思う。

◆大根はオールマイティー

吉村 さつき

寒い時期のならやまは空気が澄み、殺風景な景色に葉を落とした柿の木の実が彩りを添えている様が大好きです。活動日には早めに来て畑を一周りします。野菜たちに活動の資金として頑張ってくれてありがとうと感謝の気持ちを伝えます。

例年3月までみそ汁の具として、また、イベントの総菜として活躍してくれていた大根が今年は気候のせいや鹿の被害のせいや不作でほぼ収穫を終えました。残りの楽しみは花畑グループによって漬けられたたくあん漬のみとなりました。

大根は古代エジプトでも食されていたそうで古来より世界の各地で食べられていたそうです。台湾では「菜頭」と呼ぶそうで幸先が良いという意味の「彩頭」と発音が似ていることから縁起野菜とされておりま。

生で食べても火を入れてもおいしく、生の大根にはビタミンCやジアスターゼの消化酵素が含まれ消化を促進し胃腸の働きを助けてくれます。皮にはビタミンPが含まれ毛細血管を強くし分解酵素は発がん物質を抑制する働きもあるそうです。葉にはβ-カロテンがたっぷり含まれており根より栄養価が高いようです。辛味成分のアリル化合物は消炎作用、殺菌作用が有ります。消化促進にも役立ちます。

民間療法として咳止めには切った大根を蜂蜜に漬け一晩寝かせて出た汁を飲む。筋肉痛には大根おろしをガーゼに包み患部に当てて、痛みを和らげる。発熱時には葉をおでこに当て、熱を吸収させ解熱させる。一度お試しになってはいかがでしょうか。

大根の側根を注意深く見た事がありますか。法則にしたがって生えているようです。つまようじをさして調べてみて下さい。180度で並んでいます。人参は90度、ごぼうは180度です。面白いですね。

景観グループ

里山の今

ならやま虫だより

◆草刈り隊で、はや3年

田代 一行

シニア自然
大学校を卒業
後、クラスの
学友に誘われ、一度も休
験入学をしないまま、「奈良・人と自然の会」に入
会しました。



入会時は特に希望グループはなかったのですが
辻本事務局長から全体の活動エリアを案内しても
らいながら回っていると、景観がきれいな場所と
手入れがあまり行き届いていない場所があり、手
入れをすることで、こんなに景観に違いが出るの
かと、今、思えばそんな動機だったのかもしれま
せん。特に入会時は各グループの作業内容を把握
ができるよう事務局長をはじめ、各 G リーダー、
先輩方のプレゼンは心強く、これから入会しよう
と思う方には判断材料ともなり、入会後はならや
まの活動に対する自分なりのしっかりした思いが
できるのではないのでしょうか。

現在、雑草、竹林、雑木、倒木処理など、ほぼ
年中作業があり、毎回、単調な作業ですが、終わっ
て眺めると、うっとりするような景観に変わって
いることにたいへん満足しています。

外部から来られる方がまず目に入る景観がこの
ならやまの第一印象になると思うと、ついつい気
持ちが先走り、作業エリアも広がっていきます。

また他のグループで花や野菜、果樹など、色と
りどりの作物を育てていただいておりますが、少
しでも周辺の整備をして、耕作地を含め全体の景
観が良くなるよう心掛けていきたいと思います。

近年、過疎化や後継者不足で里山の荒廃が目
につきます。なかには竹林が道路までかぶさって危
険な状況と思われるような所もよく目にします。
そんな状況を見るたびに、周囲が歴史的遺産に囲
まれた、このならやまの景観を守るためにも草刈
り隊の役割を自覚するとともに、次世代へと継続
していく必要性を感じているところです。

◆早春のチョウ

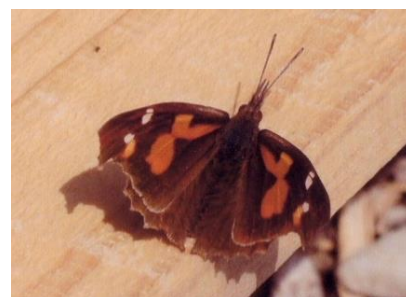
菊川 年明

二十四節気の一つである啓蟄とは、冬籠もりを
していた虫が出てくるという意味である。蟄とい
う字は閉じこめるという意味の「蟄居」に使われ
ている字である。啓蟄は3月の初め頃で、今年は
6日であるが、まだこの時期は春の気配は感じら
れるものの、虫はい出してくるような陽気には
なっていない。

しかし、成虫
で越冬してい
て、この時期に
早々と飛び出
してくる元気な
チョウがいる。
ならやまではル
リタテハとテン
グチョウがよく
目に止まる。た
いていは風の当
たらぬ日だま
りで、翅をいっ
ぱいに開いて日
向ぼっこをしている。



ルリタテハ



テングチョウ

ならやまで、成虫で越冬しているチョウは他に
アカタテハ、キタテハ、クロコノマチョウ、キタ
キチョウ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミなど
がいる。これらのチョウは3月下旬には次々に出
てくる。蛹で越冬していたアゲハチョウ、モンシ
ロチョウなどもこの頃には現れる。

モンシロチョウは気象庁の生物季節観測の対象
種目になっており、「モンシロチョウの初見日」と
して公表されている。奈良県でのモンシロチョウ
の初見日は3月下旬のことが多い。

成虫のチョウの越冬のしかたは、風の当たらな
い、落ち葉の積もったところで、翅をしっかりと閉
じて、じっとしているものが多い。落ち葉の積もっ
たところに座ると私たちでも暖かく感じる。

新春講演会・レポート

小島 武雄

日時：2020年1月26日（日）13：50～

会場：ホテルリガーレ春日野

講師：木村全邦（きむらまさくに）氏

「森と水の源流館」企画調査班班長

講演会参加者 51 名、懇親会参加者 32 名

演題：

「生物多様性につながる私たちの暮らし

自然が大事な何で？」

木村先生は吉野郡川上村のコケ植物の研究家で

す。以前当
会の月例研
修で「森と
水の源流館」
に伺った時
の印象がと
ても強く、



ぜひと講演をお願いしました。当日はご家庭の事情で小さな子供さんを連れての講演となりました。会場の片隅の机にはミニカーが数台置かれ、DVDプレイヤーにアニメまで用意してくださいました。小さなゲストは絶えず動き回りスクリーンを揺らしたり、小さな歓声をあげたり、ぐずると先生がお子さんをしばし抱き上げたりでしたが、進行には特に支障なくほほ笑ましく見守りました。

川上村は、吉野川の源流に位置しますが、住民は水不足や水害に苦しみました。下流の洪水対策もあり、大滝ダムの建設が要望されました。

川上村は大半がダムに沈むなど反対運動が起きましたが、森林資源のパルプ材伐採が行われないように行政が森を買い取り伐採から守り、天然林を切れば元に戻るには何百年もかかるため、740ha の自然の森を買収、その 10 億円は実に当時の年間予算の 5 分の 1 を使った事。そしてダム完成後、住民は川上村の良いところを見直しました。美しい森と美しい水が流れている。森を守り森を活かすように、水源地の案内、森づくりの再生、和歌山市民の森資金、関西電力の労働組合の協力など、変わってきた様子を話されました。

森の役割は、生物多様性・地球環境保全・自然災害防止・水源保全機能・森に入るものの健康面・資源利用など。またブナの木 1 本、水 1 石などが紹介され、生物多様性の話へ。バーチャルウォーターの話では、身近な牛丼一杯には 2000L の水が必要で、内訳は牛肉の牛を育てるのに 1440L、お米に 400L、玉ねぎに 60L など。必要な大量の水は、アメリカ、カナダ、オーストラリアから輸入していることになります。

地球上の全人類が日本人と同じ生活をすれば地球が 2.5 個必要になる計算です。地球の身の丈に合うように上手に資源を利用する必要があります。

サステイナブル、開発目標 GOALS (ゴールズ)、国際連合 17 の目標について、環境保全活動家の 16 才のグレタさんは、誰のための条約か未来の人のためと訴えました。

生物多様性と自然の問題は、世代を超え多様性のもと一つ一つ解決して未来へ引き継ぐと締めくくられ、あっという間の 1 時間半でした。

講演会終了後、庭の見える会場に場所を替えての懇親会では木村先生より、吉野林業にとどまらずに多方面で活躍された、「日本林業の父」土倉庄三郎さんのお話を伺いました。各地に広めた造林法、林業の要のため川の浚渫（しゅんせつ）や道路の拡張などを行った功績。自らの財産を 3 分の 1 は国のため、3 分の 1 は教育のため、3 分の 1 は事業のためとし将来に向けての十分な支援をされた事。明治初期に薪にされようとした吉野の桜を買い戻されたおかげで、今私たちは桜を楽しむことができます。川上村に小学校を作られ、同志社大学設立の新島襄に出資されました。女子の高等教育ための寄付。自由民権運動の板垣退助の洋行費用が提供されたことなどが伺えました。

このような人が奈良におられたことに感謝し、感動し、誇りに思えました。



2月例会研修会・レポート 「明神山からの世界遺産ビューと達磨寺」

森 英雄

前日の天気予報に反し、幸いに雪も降らず、予定通りのコースを歩けた(欠席者6名)。バスを降り、赤鳥居下から登山。日が差し、風も弱い中、林間をゆっくり登る。開けた展望所で『亀の瀬崩落』の説明を受けた後すぐに明神山頂上に11時前に到着した。明神山は標高274mと低い山だが360度のパノラマ。水神社を中心にして、広い展望デッキが3カ所に設けられ、無料の望遠鏡が設置されていた。



各人が好きなデッキに分散し、持参した双眼鏡も使いながら「あの山は…」「あの塔は…」「あの古墳は…」等と大はしゃぎ。『古市・百舌鳥古墳群』、『法隆寺』、『薬師寺等』、『東大寺等』、『比叡山』と5カ所の世界遺産が見え、あちこちで二上山・葛城山・生駒山・大和三山・馬見丘陵などを得意気に説明している人がある。疲れて休憩デッキで休む人、少し奥の山に登る人など自由時間を各自が満喫。期待した『明石大橋』はガスっていて見えず残念だったが、約50分滞在して下山。赤鳥居まで戻り、下って12時15分に『尼寺廃寺跡学習館』に入って遅めの昼食。備え付けのパンフレットを配り、急きょ説明をする事になった。

この廃寺の概要、建立者などについて自説を説明したが、メンバーが一番興味を持ったのは『この寺の塔の基盤はどんな手順で作られたか』という1点。まさにこの廃寺跡の特徴は“日本で最初にこの問題に解答を出してくれた”事であり、それに関して、実物(塔基壇の構築過程の土層を剥ぎ取った土層断面)、実物大模型、説明パネルなどで丁寧な解説があった。簡単な説明後、あれこれと質問が続出。あーだこーだと“にわか討論会”

が各所で行われた。学習館の前にある塔の基壇に上がって数人でワイワイやり出した。ここでもミニ討論会。残念ながら時間切れで、それなりに理解した人・まだ疑問を持つ人などがそろって13時20分に達磨寺に向かって出発し、『聖徳太子葬送の道』を歩いた。

迷いながらも『乳垂地藏』に着き、どれがこの地藏なのかかわからず喧々諤々(けんけんごうごう)。「王寺町に聞いたらどうか…」等と疑問のまま『蘆田池』に行く。飛鳥時代の『片岡池』とも考えられ、『朝池(あしたいけ)』から名付けられたという地元伝説があるとのこと。次に王寺町の名のもとになった『片岡王寺(放光寺とも言った)跡』に着いた。今は王寺小学校が建っているだけ。この校庭ををぐるりと回り『片岡神社』『放光寺』を見学して最終目的地『達磨寺』に14時30分に到着した。

当会Sさんの同窓生である達磨寺住職さんが出迎えてくれ、本堂で説明が始まった。東の『高崎の達磨寺』は有名だが、西の『王寺の達磨寺』の方が古くからあり『本家』であると優しく力説。次いで聖徳太子伝説や寺の再建に関する工夫・大発見の話などの説明があった。本堂の下にある古墳の頂上部に石室があり、その中に石塔・合子(ごうす)・五輪塔の形の舍利容器(水晶製)が順次納められ、一番中に仏舍利が納められていた。この説明後、住職が僧侶になられた経緯などを楽しくお話しいただいた。その後、仏舍利や本尊のすてきな『千手観音』等を見てから境内で古墳・太子の愛犬雪丸像・松永久秀の墓などを案内してもらい、最後に一緒に写真を撮り住職と別れた。約1時間の見学であった。ここで解散。結構わいわい言えた10Km強の楽しいハイキングであったと思う。



進路ガイダンス・レポ

羽尻 嵩

ひとやすみ

沢村賞ってもう無理？

千載 輝重

この会が大阪の「シニア自然大学校」の地域組織部の1つとして立ち上げられた経緯があり、本年も1月19日(日)に大学校の修了者入会勧誘のための「進路ガイダンス」に参加しました。

開催場所は例年と同じ鶴見緑地花博記念ホールでしたが、年々出展が増えて手狭なスペースでしたので、工夫して出店ボックスを作りました。

壁には会旗と各グループ・班での活動やイベントでの子供たちの活動を示す写真16枚を模造紙に張り、机にはリーフレットや会報や鹿の形の折紙などを、机前には会長が会員の活動を描かれた絵を置きました。

午後1時40分、勧誘開始。

会場には、関西で活動されている50以上のボランティアグループが出店されていて、ボックスを見て回る人も多く、和やかな雰囲気でした。



午後3時半、ガイダンス終了。

話を聞いていただいた方は、ならやまに実習に来ていただいた方たちがほとんどで、特に熱心に話を聞いていただきました。

後日、大学校より入会希望者の連絡が入りました。会での里山整備活動を共に頑張りましょう。

午前中から来ていただいた小島さん、桜木さん、事前に写真など準備物を用意していただいた辻本さん、ありがとうございました。

今年もプロ野球が始まる。名将、野村克也も逝った。データ野球で話題を呼んだが、やっぱりこの時代の選手は「ど根性魂」で云々される方がふさわしい。特に投手はそう思う。でもそんな怪物を期待することも難しくなっている。

15勝、150奪三振、10完投、200投球回数、25試合登板、勝率6割、防御率2.50以下・・・沢村賞選出にあたって参考にされる選考基準だそう。去年は19年ぶりに該当者なしに終わった。中でも10完投、200投球回数は遠く及ばず、誰もいなかった。投手の起用が先発、中継ぎ、抑えの分業となった最近の野球では沢村賞はもはや望むべくもないのではないかな。大リーグでも100球を越える選手と選手の代理人がクレームをつける。救援投手が先発して短い回を投げ、その後に本来の先発投手が出てくることも多くなっている。なんだか寂しいが、昔ながらの先発投手の投げ合いを期待するのはもう無理なのか。プロ野球ファンが減少傾向にあるのはこうしたことも関係しているのかもしれない。

でも、力のある投手なら完投することの達成感が味わえないことに苛立ちを覚えるのではないかな。勝利だけにこだわるゲームにはがっかりさせられるファンもいるだろう。スポーツに打算を持ち込むと興ざめである。成長過程の若者を守るための工夫は必要だと思うし、昔ながらの精神論が強く出過ぎるとパワハラなどにも発展することもあるので、あまり偏った考えは禁物である。でも、日本のスポーツはやはりどこかでウェットなところがあってほしい気もする。

流行語大賞「ONE TEAM」が感動を呼んだのも、そんな背景が無関係ではないかも。ちょっと無理するのも若者の特権である。

懐かしい・・・



2020 年度 月例研修会 活動計画

月例研修会担当 富井 忠雄

令和2年(2020年)度については、奈良(大和)の自然・歴史・文化の探求を目的にまず大和の古道・旧跡を歩き探訪したいと思います。その中で自然(樹木・山野草・野鳥など)に触れあったり・寺社仏閣を見識したり、その地域での歴史・文化を見学・発見をしたいと思っています。夏季研修会に一泊2日を計画しています。

月	日	曜日	概 要	主 要 行 先	例会担当者
2020 年 4	14	火	東吉野村高見の郷(花見) マイクロバス	天空の庭高見の郷・丹生川上 神社中社・七滝八壺	◎青木・戸田・富井
6	9	火	薬草の里・宇陀松山城跡 マイクロバス	森野旧薬園・松山城跡・大宇 陀町並み	◎千載・桜木・富井
8	24-25	月 火	<1泊夏季研修旅行> 富山・立山 デラックスバス	高岡・富山・おはら風の盆 立山アルペンルート 宿:立山グリーンパーク吉峰	◎小島・福田・青木・ 戸田・富井
11	2	月	天川・みたらい溪谷紅葉・ハイキング マイクロバス	みたらい溪谷・洞川散策	◎中井・太田・富井
12	1	火	二上山	當麻寺・二上山(雌岳・雄岳)	◎中井・羽尻・富井
2021 年 2	9	火	下ッ道	二階堂~藤原京	◎福田・太田・富井

※ 8月はサロンカー使用:4月・6月・11月マイクロバス予定

※ 各月例担当者では、下見・本番・資料・アルバム作成などお願いします。(3名〜)

※ 各月のアルバム・広報については:青木幸子・ ◎印は、各例会の担当責任者です。

※ 諸般の事情により、実施日、行先等を変更する場合があります。担当(富井・小島・青木)

2020 年度 歴文クラブ 活動計画

歴文クラブ 事務局 中井 弘

1. 年度計画 統一テーマ「歴史の渚を歩くⅧ」

令和2年(2020)は、日本最古の正史「日本書紀」が編纂された養老4年(720)から1300年という記念すべき年です。「日本」を書名に使った最初の本が「日本書紀」ですが、これに先立つ702年、30年ぶりに派遣された遣唐使は「倭」を嫌って新しい国名「日本」を則天皇帝(則天武后)の中国に認めさせています。

この記念すべき年に当たって、下記の通り年間計画を立案いたしました。主として奈良県内とその近郊に絞っています。

実施日	テーマ	内容	担当世話人
5月13日(水)	物部氏Ⅱ	物部氏の拠点・布留遺跡を訪ねて	藤田・塩本
7月15日(水)	薮屋北遺跡(しとみやきたいせき・四条堰)の世界	馬匹・馬具生産と騎馬文化の広がり	八木健彦・(川口)・中井
9月15日(火)	蘇我氏Ⅱ	蘇我氏の正体とヤマト政権	田代・八木健彦
11月10日(火)	神仏分離と廃仏毀釈	寺院・仏像・経典の破壊が激しかった奈良の寺院に焦点	羽尻・八木健彦
12月15日(火)	地元史と座学	未定	田代・永井・中井
1月12日(火)	三輪山初登拝	大神神社初詣と三輪山登拝	中井・富井・古川
3月9日(火)	万葉ロマン	万葉歌碑を巡り、詠み人の心に迫る	杉本・古川

*実施日は、歴史博物館や資料館の休館日より、変更の可能性があります。

*交通機関は原則徒歩となります。

2. オプション行事

検討中	北九州の古代史跡を巡る	宗像大社、志賀島、吉野ヶ里遺跡など	坂東・田代・古川
-----	-------------	-------------------	----------

3. 世話人会新体制

代表	古川
事務局	中井(チーフ) 田代 八木健彦 青木幸子 戸田
世話人	古川 鈴木 中井 田代 八木健彦 青木幸子 戸田 塩本 藤田 杉本 永井 富井 森 羽尻 八木順一

2020 年度 自然教室チーム 活動計画

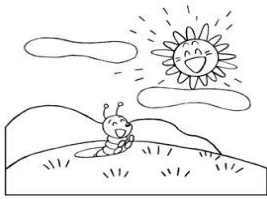
自然教室担当 辻本 信一

酷暑、極寒の7月、12月、1月、2月の観察会は中止いたします。

来年3月の観察会は、「お楽しみ」とさせていただき、詳細は来年1月の3ヶ月スケジュール発表時に合わせて紹介させていただきます。

その他、「ならやま」での自然観察会ははじめ、四季折々の話題提供となるオプション観察会を随時企画いたしますので、ご期待ください。

月	日	曜日	自然観察会・学校支援
2020 年			
3	30	月	春爛漫の奈良公園 桜見物
5	18	月	新緑の生駒滝寺周辺 自然観察会
6	未定		佐保台小学校：放課後子供教室
6	未定		育英小学校：出前教室
6	22	月	初夏の馬見丘陵公園 自然観察
8	17	月	平城京 燕の埒入り観察
9	未定		佐保台小学校：昆虫観察会
9	14	月	初秋の矢田丘陵 大和民族園周辺 自然観察会
10	26	月	秋の奈良公園 自然観察会
11	25	水	晩秋の奈良公園 紅葉狩り
2021 年			
3	1	月	早春の「お楽しみ」 自然観察会



わたしのふるさと

阿部 和生

故郷を離れ 50 年余、現在の奈良市居住が 30 年余となります。滋賀県北部、現在は長浜市に併合されましたが、滋賀県東浅井郡上草野村という旧名で、姉川の支流の[草野川地区]が故郷です。

1317m ある金糞岳を源流とするこの「草野川」は、東西の山を縫って南進し姉川に合流します。その両岸のごくわずかの平地にへばりつくように転々と村々がある寒村でしたが、その頃はにぎやかさがああり、小中学校が健在、お店もありました。集落の東の山を越えると奥伊吹を源流とする姉川があり、その東が標高 1377m ある伊吹山です。日本海からの湿気を含む「ぼた雪」が、伊吹山で遮られ、地域一帯を埋める厳しい冬が当たり前の環境でした。

「故郷」の歌詞にあるような「山青きふるさと、水清きふるさと」であり、山菜を採り柴を集めわずかな田畑を耕す、炭焼き、養蚕など地域に密着した生活の慎ましい集落でした。虫は川面を埋め尽くし、奥山はイワナ、夏は鮎釣り、秋は山々が紅葉する自然に恵まれた里地でした。

集落の東西の山は、マツタケのシーズンだけは村有林になり入札されます。その入札権利金は集落の収入となるしきたりでした。その収入で集落の年間維持費が十分まかなえる金額で貴重でした。細い幹線道路が集落をつなぎ、狭い道路の軒をかすめるように大型バスが丁寧に運行され、重宝でした。不便ながらもとても愛着が持てた故郷でした。高度経済成長政策で、若者は家を離れる時代になり、私もその一人です。定年になり、故郷に帰る選択をせず、きままな都会暮らしで今日まで来ています。

最近の故郷は様変わりしています。「草野川」は手入れされず、山はマツ枯れが進み、野山の放置が目立ち、紅葉は昔の色を失っています。熊が出没し、シカやイノシシが増え、サルが我が物顔です。畑は周囲を柵で囲うだけでは駄目で、上まで網で覆わないとサルにやられます。秋の風情のカ

キは、枝に留め置くと熊が近寄るので除去します。竹林は、イノシシと人間が競争でタケノコを取り合いますが、軍配はイノシシです。



左：小谷山

右奥：金糞岳

西の山を下りますと、「お市の方」で有名な浅井長政の居城の小谷山が厳然とそびえます。さらに西にはその浅井氏の財力を支えたと言われる北琵琶湖に良港があり、その地域の支城山本山がぽっかりと姿を見せます。港の西には竹生島が浮かびます。

信義を重んじた武将の浅井長政は朝倉氏と共に滅びましたが、その児たちは豊臣、徳川に嫁し時代を生き延びています。長浜市は秀吉の大名出世の最初の地であり、地域の人々を大切にしましたようです。長浜祭りとして豪華な山車が根付き、いまでも連綿と続いています。吾が故郷の草野川の橋は、なぜか「天下橋」と名付けられています。秀吉の運命を分けた柴田勝家との戦で、この谷間を武将が走り抜けたとも伝わるからでしょうか？

新しい息吹もあります。休耕田を活用し、高齢者の農地を借り受け、若い大規模専業農家も生まれています。獣害に対しては、山裾をぐるりと鉄柵で防御し、草刈りも復活しています。

何年前かに、お江の方（お市の三女）のTV放送があり、その時期に合わせて「小谷城戦国歴史資料館」が新設、文化庁の許可を得て山城周辺部や登山道路が整備されています。「全国 100 名城」にも選出され観光客は絶えません。道の駅は、地域の農家の収穫物でにぎわっています。住居があり、田畑山林がある地域の生活、住民の助け合い、それらは目に見えぬ田舎の生活セイフティーネットであり、少しずつ高齢者にも若者にも見直されつつあります。これからの変化が楽しみです。



彦根屏風と松浦屏風

坂東 久平

2019年12月15日(日)に大和文華館で開催された特別展「彦根屏風と松浦屏風」鑑賞した。

友人のAさんから招待券を頂いたのと、NHKのニュースを見て関心があったので、家内と二人で行った。彦根屏風と松浦屏風の同時展示は、1984年の特別展以来35年ぶりのことだそうです。当日は彦根城博物館の高木氏の講演もあったので、大変勉強になった。

国宝・彦根屏風 (彦根城博物館蔵)



国宝・松浦屏風 (大和文華館蔵)



二つの屏風は、何れも近世の風俗画の代表作で、彦根や松浦の景色を描いたものではない。

長い戦乱の時代が終わり近世初期では、現世を楽しむとする風潮が出て、絵画も主流の枯山水や宗教画(来世を描いた)から、現世を楽しむ様子を描いた遊楽図に変化した。

寛永年間(1624~1644)頃には、遊楽図が熟成し、さらに金地の画面に人物をクローズアップした作品が現れ、二つの屏風はその代表作である。

彦根屏風の作者は不明であるが、狩野派の実力ある絵師に依るものと推定されている。計算された構図、繊細な表現(髪の毛を細かく描いている)、高度な技術(立体感を出すために絞りの柄に胡粉の盛り付けをしたり、染め斑を細かく描いたり、刀の鐔の金属光沢を出したりしている)など、随所に精緻な工夫がされている。

教養のある人ならわかる仕掛けもあり、中国の琴棋書画に見立てて、琴→三味線、将棋→双六、書→艶文、画→画中画の屏風の山水画のように対比させている。

彦根藩十二代・井伊直晃(なおあき)が購入したもので、千両近い大金をはたいたとの文書が残されている。直晃は桜田門外の変で有名な十三代直弼の養父で、19歳から57歳まで藩主を務め、42歳から6年間大老にも就いている。

彼は、真面目で大変趣味の多い方だったようで、刀、雅楽器(300)、更紗(450枚)、古文書、茶器及び茶書などで、有名なコレクターでした。

松浦屏風は、平戸藩主松浦家に伝来したことから「松浦屏風」の名で親しまれている。この作品が大和文華館の所有となったのは、開館準備期の1952年で、1954年に国宝に指定された。

制作時期について諸説あり、①寛文年間説では、松浦静山の注文(1787年)で慶長年間頃の服飾を追憶して描かせたとする。②寛文年間以降説、③元禄年間光琳製作説、④慶長年間説などがある。

六曲一双屏風で、各双とも156cm x 362cmの大きなものである。

遊女の着物や髪型、ロザリオやカルタなどの南蛮趣味の伺えるものが多く含まれている。スケールの大きな華やかさと平板な硬さが入り交じった表現に特徴がある。

＊各屏風を見たい方

彦根屏風：彦根城博物館で年に1度

(4月~5月の1か月間) 展示

松浦屏風：大和文華館で年間1度くらい

(次は2020年4月頃の予定)

(参考文献)

特別展「国宝彦根屏風と国宝松浦屏風」解説書
彦根城博物館 学芸史料課主幹 高木文恵氏講演

ならやまトーク・投句 (寒・中編)

労作のビニールハウスや春隣

藤原 勉

(手作りの育苗用の温室、皆の力でやつと完成。春よ早く来い)

この子等に残す地球を語る初春

古川祐司

(新春講演会、愛児を抱いた講師は、地球の未来を熱く訴える)

原始林山肌えぐる冬の雨

阿部和生

(春日原始林での自然観察会、昨年の台風による倒木が発生し山肌の土砂の流出があちこちに。山の荒れ様に心が痛む)

遠近の山は白々里も雪

阿部和生

(作者の実家のある湖北は豪雪地帯。はるかに伊吹山塊や金糞岳が白く輝き、近くの里山や田畑は白一色の雪景色に沈む)

幕尻の汚名返上春土俵

岡田安弘

(奈良出身で幕尻の徳勝龍、最終日に大関貴景勝を破って、堂々の初優勝。春場所前頭2枚目へと大出世した。頑張ってやー)

草の葉にダイヤヤちりばめ寒の朝

桜木晴代

(大寒に入り、極寒が戻る。野の草の葉には霜の花がきらめく)

背を丸め菜花摘む女人深帽子

青木幸子

(立春は菜花の収穫期、風は冷たいが強まる日差に、顔を隠して農作業にいそしむ農婦はかなりの年配か。「深帽子」がいい)

投句歓迎 (古川まで)

群雀屋根から屋根へマスゲーム

鈴木未一

(昔の家並が残る一帯は、雀が住み着いている。冬は集団行動の季節、一斉に飛び立ちかなたの屋根へ。なつかしい冬の風物詩)

鬼は外無言でかぶる恵方巻

羽尻 嵩

(節分の夜、大声で鬼を払い、海苔巻に幸運を願う丸かぶり。くれぐれも喉元にはご用心。因みに今年の正恵方は西南西)

比良ハ荒心のゴミも吹き飛ばし

羽尻 嵩

(湖国近江の三月は比良ハ荒が荒れ終いという。この時期には天台宗の寺々では比良八講の行が執り行われる。)

お前もか賀状の隅に以後遠慮

小山喜与男

(友人からまたも賀状遠慮と。余命は一五年もある、先は長いぞ)

日向ぼこ十年をめくる画帳かな

ハ木順一

(絵心のある作者。往時は愛用のバイクを駆って各地をスケッチして回ったものだ。画集をめくれば、思い出の風景が蘇る)

石仏に供える如く落椿

中井 弘

(歴史の下見に白毫寺へ。志貴皇子ゆかりの古刹は椿の名所。散り敷いた五色の椿と石仏の対照、中々いい雰囲気である)

石段に千年の刻椿落つ

古川祐司

(山門への石段が歴史を刻んで鎮る。椿並木から花の落ちる音)

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活 動 予 定 日

3月	5 (木) 12 (木) 19 (木) 26 (木)
4月	2 (木) 9 (木) 16 (木) 23 (木) 30 (木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）
- ◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① J R 平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
 - ② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 J R 奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。

- ◆ 連絡先：八木 順一



◆ 3/5 協働活動日・アダプトプログラム ◆ 3/19 新入会員歓迎会 ◆ 3/26 備品点検日

里 山

- 3/5** **12** 椎茸菌打ち・仮置き／杉の皮むき
マキ割り・マキ材の玉切り／里山林内の整理
ユート：松山平植菌のための整備
- 19** **26** マキ割り・マキ材の玉切り
里山林内の整理／下草刈り
ユート：バカ松茸実験区整備
ユート：松林整備地区植菌準備（26日）

エコファーム

- 3/5** じゃがいも、葉菜類、畝作り
ごぼう、にんじん、畝作り
果樹：実りの森の除草兼耕運／苗木の植え込み
- 12** じゃがいも植え付け／茄子、唐辛子類の苗床に播種／ほうれん草、春菊、小松菜播種
果樹：柑橘類の剪定／ユズ、スダチ、イチジクの植替（19日同じ）
- 19** かぼちゃ、トマト、ズッキーニ、胡瓜、オクラ、マクワ、レタス、ゴーヤ苗床に播種
- 26** サツマイモ、里芋、予定畑準備
チップ入れ
果樹：柑橘類の剪定

景 観

- 3/5** 整備：BC 周辺枯竹粉碎・竹林整備(毎週)
養蜂：周辺清掃・調査 (毎週)
ビオ池：池の整備（5日・12日・19日）
花：西入口草取り、アジサイ移植
シモツケ、ユキヤナギ移植
- 12** 花：ハナショウガ剪定、麦施肥
- 19** 花：ナデシコ苗植え付け、キンセンカ移植
- 26** ビオ池：西池水生生物調査
花：キショウブ園剪定、整備

パトロール

- 3/5** **12** **19**
観察路点検整備
安全ロープ、標識ペンキ補修、ミーティング
BC 自転車置き場周辺整備
- 26** 観察路点検整備
丸太階段、安全ロープ、標識ペンキ補修、春の自然観察会
BC 自転車置き場周辺整備
- コースパトロール：2・3・4・1



行事案内

佐保川わいわい桜祭り

三瀬 英信

- ◆ 4月4日(土) 予備日5日(日)
- ◆ 模擬店・イベントなど: 10時~15時

恒例の佐保川わいわい桜祭りは近鉄新大宮駅北東側の川沿いの遊歩道一帯にて今年も実施されます。川のほとりには桜の「巨木・古木」として知られる「川路桜」がその雄姿を誇り奈良市内の桜名所としても有名なところです。



【「佐保川の桜並木」に咲き誇る桜の最古参】

ちなみにこの「川路桜」は、その名の通り、「川路聖謨」という奈良奉行が、幕末に着任してから行った施策の一つとして植樹されたと言われていいます。現在は川沿いに1000本の桜並木を誇りその光景は見る人の眼を楽しませてくれます。

期間中に行われている「桜祭り灯火会」は水面に映える桜並木が訪れる人を迎えてくれます。

当会は2014年に初めて参加し今回で7回目になりますが、当時から多彩な出店内容は主催者の注目の的でした。昨年は“唐揚げ”“焼きそば”“ネギ焼き”のバザーと、干支の戌と鯉のぼりなどの竹の自然工作でブースは大にぎわいでした。



今年も例年通り工夫を凝らして喜んで頂けるものにしたいものです。ぜひご協力ください。

自然教室チーム 春爛漫の奈良公園

自然観察会(桜見物)のお知らせ

辻本 信一

いよいよ待ちに待った桜の時季到来です。

自然教室チームでは、3月2日(月)に大湊池公園にて自然観察会を実施いたしますが、最近の温暖化を考慮し、これまで4月だった桜見物を中心とした奈良公園での自然観察会も3月に前倒し、下記要領にて実施いたします。

1. 日時: 3月30日(水) 10:00~14:00 予定
2. 集合: 近鉄奈良駅、行基像前
3. 持ち物: 弁当、飲み物、あればルーペ
4. 観察ルート: 春日野園地を中心に奈良公園内
(担当: 辻本)

毎年、桜(特にソメイヨシノ)の開花予想は専門家でも頭を悩ますところですが、奈良公園では早ければ3月中頃から氷室神社のシダレザクラを皮切りに、遅くはサトザクラ開花の5月はじめごろまで時期をずらして色々な桜が楽しめます。

昨年の観察会では、桜の花のみならず、浮御堂周辺に咲く純白のコブシの花に一同感嘆の声、春の花々の競演を楽しみました。またラッキーにも、新公会堂裏の日本庭園ではスプリングエフェメラルの代表格「カタクリ」のかわいい蕾にも出会いました。



【氷室神社のシダレザクラ】 【満開のコブシの花】

4月ならやま活動&行事予告

- ・2日(木) 協働活動日・アダプトプログラム
- ・月例研修会
- 14日(火) 東吉野村 高見の郷(お花見)



***3月19日(木)に予定されていた「新入会員歓迎会」は日程未定の延期となりました。**

奈良学クイズ



新型コロナウイルス

戸田 博子

わかるかな～



【問1】昭和の初めに東大寺の高僧を頼って奈良に滞留し、その後『? ?』で芥川賞を受賞した作家は誰でしょうか。写真は、受賞作の本の表紙で、のところに作家の名前と題名が入っています。

【問2】次の文は、赤膚焼について解説しています。3箇所の下線(ゴシック体)の記述箇所は誤っています。正しい答えをお答えください。

天正年間(1573～1592)豊臣秀長が尾張国瀬戸から陶工の与九郎を招き、五条山で開窯させたのが創始というが、当時の史料記載や物品はない。天明6年(1786)大和郡山藩主・柳沢保通の保護を受け、住吉屋平蔵に任せて、試験窯が郡山大職冠町の内野六郎左衛門の屋敷内に築かれ、信楽の陶工・弥左衛門が4年間作陶したが、まだ名称はなかった。・・・。

【応募方法】メール

nara-suzuki@naranature.com

【締め切り日】令和2年3月5日(必着)

【景品】????????

この文章を読まれる頃、新型コロナウイルスの話が終焉していればいいなと思いながら書いています。

話は急に飛びますが、コロナウィルスという名を初めに聞いたのは、30年前でした。一匹のノラの仔猫を庭で拾いました。当時、ヒットしていた宮崎駿のアニメ「魔女の宅急便」にちなんでジジという名前を付けました。

雑種ながらシャム猫を連想させる姿、犬のようにボールを投げれば拾って持ってくる、走れば天井まで駆け上がり、サーカス顔負けの猫でした。

ある日、風邪をひいたかなという鼻水を出し、食欲が落ち、熱も39℃ぐらありました。獣医さんでも風邪という診断で、薬をもらいましたが、食欲はなくなるばかり、寝ていることが多くなりました。

別の獣医さんのところで「猫潰瘍性大腸炎」と診断されました。これは常在菌のコロナウィルスが原因で、ほとんど感染しても、風邪の症状のままで終わり元気になります。ただ、不運にもコロナウィルスが変異して免疫系に関与し、治療不可能になる猫がいるのです。それが、私のジジにおこったのです。

変異する原因は、今でもはっきりせず、ストレス説が有力だと言われています。

ジジは発症から、4カ月で死にました。

今回のコロナウィルスによる新型肺炎も、細菌性の肺炎と違って抗菌薬が効果を発しません。キャリアになっても発症しなかったり、感染しても重症化する人、軽くて治る人様々で、これは、それぞれの人の中でウィルスが変異しているのでは?と恐怖を感じます。

科学やIT技術がいくら発展しても、ウィルスは変異しながら、地球上で最後まで残るのか? いや、宿主がいなければ消滅するのか?

馬鹿な頭の中で考えているこの頃です。

